

# 平成29年度 学校評価アンケート〈後期〉（教職員）

平成30年1月13日実施

	項 目	後期	H28 後期	H29 前期
(1) 人間力の育成				
1	はじめや切り替えの指導を通じて、「学習を基軸に据えた部活動との両立」を果たすタフな人間性を育むことができた。	2.9	3.0	2.9
2	挨拶、掃除、容儀の「DNA3か条」を通じて、豊かな品性、南高生としての自覚と誇りを育むことができた。	2.9	3.0	3.1
3	時間や規則、提出期限の厳守、三点固定による生活リズムの確立等を通じて、自己統制能力を育てることができた。	2.9	2.9	2.7
4	清掃活動や教室・部室等の私物の整理整頓の指導を通じて、感謝の気持ちや公共心、公德心を育てることができた。	3.0	3.0	2.9
5	学校行事、生徒会活動、HR活動、部活動等を通じて、自主性や主体性を育むとともに、リーダーシップ、フォロワーシップを体得させることができた。	3.2	3.2	3.4
6	『道徳教育全体計画』に基づき、「あらゆる場面で道徳教育」との認識で教育活動を展開し、特に、生命の尊厳、個人や人権の尊重について深く理解させ、自他共に思いやる心を育ませることができた。	3.0	3.1	2.9
7	桜が丘特別支援学校、佐世保特別支援学校との交流活動を通じて、人間愛と共生の心を育ませることができた。	3.1	3.2	3.0
(1) 平均		3.0	3.1	3.0
〔2〕 学びの体幹強化と進路実現				
1	独自教材等の作成・活用や授業規律の徹底など、計画的できめ細かな各学年の導入期指導を行うことができた。	3.2	3.3	3.1
2	「3つのShin（真・進・信）」を通じて、自らを鍛え伸ばす学びの姿勢を定着させることができた。	2.8	2.9	2.8
3	「朝の読書」を通じて、感性を伸ばし価値観を広げ、思考力を向上させ基礎的学習能力の拡充を図ることができた。	2.8	2.9	2.8
4	総学の時間、卒業生による進路講演会、大学OCへの参加等を通じて、進路選択能力の育成を図ることができた。	3.3	3.5	3.2
5	『生活の記録』をコミュニケーションツールとしても活用し、自己管理能力や時間活用能力を育成することができた。	2.8	3.1	2.7
6	素材研究に加え教授法研究を行うとともに、「生徒による授業評価」を活用して良質な授業を提供することができた。	3.0	3.3	3.1
7	スタディ・サポート、定期考査、対外実力・模試、センター試験、大学入試問題等の分析・検証を通じて、授業改善（授業のPDCAサイクルの確立）に取り組むことができた。	3.2	3.3	3.1
(2) 平均		3.0	3.2	3.0
(3) 保護者・地域の期待に応える学校づくり				
1	海外研修、県立大学との高大連携事業、GTEC、2学期制、幅広い科目選択、朝の読書、Sプロ、南高祭、生徒会による学校生活改善や朝の挨拶運動など、本校の特色ある教育活動をさらに進化させることができた。	3.2	3.2	3.2
2	保護者への連絡を密にし信頼関係を築くなかで、生徒が社会人として自立できるよう援助することができた。	3.2	3.3	3.1
3	育友会活動への積極支援、保護者の来校機会の増設により、保護者との連携、相互理解をいっそう深めることができた。	3.0	3.3	3.2
4	学校安全衛生委員会の機能も活用しながら、安全で安心、より豊かな教育環境を提供することができた。	3.1	3.2	3.0
5	面談活動や観察による生徒理解に努めるとともに、特別な配慮や支援が必要な生徒に対しては、スクールカウンセラーを含めて、教育相談委員会、特別支援教育委員会等の組織的な対応と支援を行うことができた。	3.5	3.4	3.4
6	Webページやメールメイト、『緑柏』『学年だより』等を通じて、積極的に情報発信と情報公開に努めることができた。	3.2	3.4	3.2
7	中学校や地域に対して積極的に広報活動を行うことで、未来の入学生の認知度と信頼感を高めることができた。	3.0	3.0	3.2
(3) 平均		3.2	3.3	3.2
総平均		3.1	3.2	3.1

※ 評価基準 ④ そう思う（4点） ③ ややそう思う（3点） ② あまりそう思わない（2点） ① そう思わない（1点）